



かどや通信

第54号

発行日：令和5年1月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

R4版なかまちクリスマス イルミネーションだけじゃない！

鳥羽なかまち会は、鳥羽三丁目から四丁目界隈に昭和の賑わいを取り戻そうと様々な活動を続けている。その一環として十二月十九日から二十五日までクリスマスイルミネーションでなかまの夜を明るく照らした。

（この試みは、昨年（令和三年）から始まったが、今年はイルミネーションの数も増え、四丁目のイルミネーションの元祖である〇さん宅をはじめ、かどや、おにぎりカフェ・うさぎのしっぽ、クボクリに加えて、生チヨコレートのアトリエアンジエ、たご焼きの笑い屋も参加した。



かどやの飾りつけは、かどやのユウジさんと前回の〇さんから安全な設置方法の指導を受けた元地域おこし協力隊のハジメちゃん

ん、現協力隊のクサカ君に加え、飾りつけのためだけに奈良から駆けつけてくれたクサカ君の大学の後輩二人が半日かけて完成させてくれた。

今回はイルミネーションを楽しんでもらうだけだったが、せっかくならイルミネーションを眺めながらクリスマス気分を味わってもらおうと、二十三日には「夜カフェ」と題して、午後五時から八時まで各店舗が店を開けた。

そこで、かどやでは、午後六時から七時までミニコンサートを実施。かどや専属バンドを名乗る「オークグループ」「かどやゼンザーズ」、鳥羽市民コーラスはまおぎの有志で急遽結成した「なつめ」、ボランティアスタッフでピアノ教師のマーちゃん、かどや絵本ひろめ隊のカヨさんとミツヨちゃんが出演した。



コンサートの内容が固まったのが本番の約十日前だったため、大慌てで、練習を始めた。ゼンザーズは今回、ウクレレとギ

ターのアンサンブルでの演奏のみ。お馴染みのクリスマスソングは、なつめを中心に「みんなで歌いましょう」形式で十曲をお客様と一緒に合唱した。プログラムの最後は、マーちゃん

んが長尾オルガンで「アメージンググレース」や「アベマリア」等を情感



たっぷりに演奏し、クリスマス気分を盛り上げた。絵本ひろめ隊



は、出演グループの交代時間を利用して「あいたくて あいたくて」（作：みやにしたちや）と「せつばうの濁点」（作：原田宗典）を朗読した。

今回は、コンサートの企画決定が遅れたため、告知は〇コミとフェイスブックのみ。しかも当日が寒波の影響で非常に寒かったこともありお客様より出演者の方が多かった。だが絵本の朗読を聴きたいと駆けつけてくれた親子もいて、関係者を喜ばせた。



**モノ作りの楽しさを伝えたい！
暖かみある手造り作品展**

「欣ちゃんのモノ作り展」と題する作品展が十一月二日から十九日まで開催された。

欣ちゃんとは、アートに造詣の深い中村欣一郎鳥羽市長のこと。欣ちゃんがこれまでに収集したプロの作品十一点と、自らが制作した作品や写真等が展示された。

欣ちゃんは市長に就任する前から海岸の清掃活動に積極的に参加し、流木アートと言われる海岸に流れ着いた流木などで作る作品をはじめ、海の博物館で行われた海藻おしほの会で作った作品や、無地の布製バッグに絵を描いたもの、愛犬の写真なども出展。



また、布製のぬいぐるみは、ニナビドで簡単にできるぬいぐるみの作り方を紹介していたのを見て作ったそうだ。「海辺のマリア」と題する作品は、流木と

つぶれたアルミ缶と合板を組み合わせたもので、海の博物館主催の「海は広いな大賞展」の入賞作品だ。

欣ちゃんは「こだわりの統一感もありませんが、これまでで作ってきたものを集めました。『こんな作品なら自分にもできる』と思ってもらって、モノ作りに挑戦するきっかけになればうれしいです」と、作品展の意図を話す。

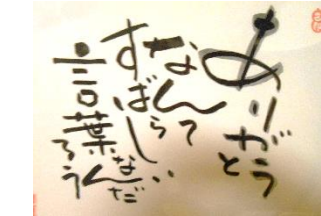
「作品に込めた意味を分かっただけ」と、全ての作品には手書きの説明文が付けられており、解説者が居なくても、楽しく鑑賞できるよう工夫されていた。



「海辺の視線」(写真)の説明文
空き缶のフタの部分が流れ着いた海洋ゴミ。大きな口と二つの目がユーモラス。(中略)笑顔にみえますか？悲哀に満ちた表情にも見えますか？

**思いつがまきに書を描く
己書(おのれごと)作品展**

一月の展示は「多田美幸・己書道場作品展」だ。



「己書」とは、自分だけの「書」という意味で、簡単な「じ」はあるものの、書き方や書き順などのルールにとらわれることなく、思いつがままに筆を走らせ、自分の

世界観を楽しく表現する新感覚の書である。2012年「日本己書道場総師範快晴軒大晴(かいせいけん あつばれ=本名:杉浦正)氏が名古屋市内に道場を開設し、「己書の楽しさを伝える活動を開始。令和五年一月現在、師範数は全国で二千人をはるかに超えているのだ。

今回は、上席師範の多田美幸さん(名古屋)を中心に、師範の伊勢谷ひとみさん、安川淳子さん、川邊真由美さんと、道場の生徒さんの作品など二百十五点が展示された。新春らしく縁起の良い宝船や七福神、ウサギ年にちなんだ年賀状をはじめ、作品を見ている

だけで気持ちの前向きになるような作品がずらりと並んだ。

多田さんが己書に出会ったのは2016年。「前からこういう文字を書きたいと思っていたので、この出会いが嬉しくなりました。書いている時はいつも楽しくて、今でもフクフクしています」と話す。今回は、仏画や全国のお地藏様を描いたもの、お正月らしく三十六歌仙の和歌を書いた大作など七十五点を展覧した。

己書は筆、ペンと紙さえあれば始めることができるのが魅力だ。道場では一回九十分で、基本的には師範から渡されたお題に沿って書や絵を描いていく。

かどやでは一月九日の午前中に体験講座が開かれ、七人が参加。「縛りがないので、自由に楽しかったです」と好評だった。三月五日にはかどやで、伊勢谷さんが講師となつて、教室が開かれる予定。



体験講座で己書の楽しさに触れる

コーヒー好きの楽しい集い おいしいコーヒーの淹れ方講座

第八十七回かどや塾「おいしいコーヒーの淹れ方」をマスターしようが十二月四日に開催された。高い焙煎技術を誇る伊勢市のなかむら珈琲の中村さんを講師に迎え、コーヒー好きの十二名が参加した。当日の様様をかどやスタッフがレポートしてくれた。

《至福のコーヒータイムに感激》

会場にはコーヒーの香りが立ち込めており、かどやの台所は喫茶店さながらの雰囲気。講座が始まった。講師の中村さんは「ニコニコ笑顔」を絶やさない気のいいマスターという感じ。その傍らでエキパキと準備をされている奥様と、時々交わされる掛け合い。漫才風の会話がとても楽しい。中村さんは「まず、世界で一番飲まれている「ブラジル」



コーヒーの淹れ方を解説しながら淹れてくれた。その味はとても飲みやすく、もつと飲みたいところだったが、これから数種類の飲み比べがひかえているので、ぐつと我慢する。



参加者十二名は3つのグループに分かれて、「グアテマラ」「タンザニア」「エチオピア」「東ティモール」の4種類を一人一種類ずつ、中村さんの教えに従って淹れていき、試

飲した。さらに他のグループが淹れたものと交換して、また試飲。同じ粉で同じように淹れても味が違つのが面白い。

お湯の温度と量、粉の粒の大きさと量、抽出の時間等で「コーヒーの濃淡が変わってくることも、分かりやすく説明してくれた。

「コーヒーには甘いチョコ」「レト」が合うと思っていたが、中村さんが添えてくれたのは「ビター系」ところが、チョコも「コーヒーも味が深まるように、相性の良さを新発

見。お湯の温度や豆のブレンド等の質問にも気軽に答えてくれた。おいしい「コーヒー」と楽しい会話で、あつという間に終了時間がやつて来た。お腹はチャブチャブだったが、まだまだこの場にいたいと感じさせる至福の時間だった。個人では一度にあれだけの種類の飲み比べなどできないので、貴重な体験となった。(ヤコイ)

ヒュッゲな時間をコーヒータイム まゆみ塾でクリスマス気分満喫

まゆみ塾「冬のテーブルコーディネート」が十二月三日に開催された。今回は「ヒュッゲな時間」と題してクリスマスを意識したテーブルコーディネートだった。

「ヒュッゲ」とはデンマーク語で、「居心地がいい空間」「楽しい時間」を指す。北欧は冬が長く寒くて厳しい環境だが、そんな中でも明るくハッピーに過ごすこと、家でリラックスタイムを楽しむ文化が発達した。今回は、特に家



の中をきれいに装飾する機会の多いクリスマス時期に、日本でもヒュッゲな時間を過ごしてもらおうと企画された。

ウエルカムドリンクはホットワインといきたいところだが、車で参加している人を考慮し、アルコールはN.G.代わりに、香付けにシナモンとクローブをいれたホットアップルジュースでのどを潤した。

アレンジメント・フラワーの実習では、赤い姫りんごを中心に赤いバラと白い小花をあしらひ、二種類の杉の葉を使ったクリスマスツリーにぴったりの内容。参加者はまゆみさんの見本を参考に、それぞれの感性を生かした作品作りに挑戦した。

実習後のティタイムは、まゆみさん特製のアップルケーキに舌つづみを打ちながら、参加者同士で会話が盛り上がり、ひと足早くヒュッゲなクリスマス気分を満喫した。



今年も手作り門松で祝新年

新年を祝う門松が十二月二十五日に飾られた。この門松は毎年、フミタカさんが作って持ってきてくれるもので、かどやが一般公開されて以来、毎年続いている。



門松は、文字通り、本来は門（門口）に建てる松のこと。歳神様*は生命力の象徴で、その生命力は枯れることがないので、冬でも青々とした松に依りつくと考えられている。歳神様をお迎えする時、「我が家は「こゝろす」という田印のために松を飾ったのが門松の由来だそうだ。

フミタカさんのお陰で、今年も歳神様をお迎えすることができた。
*歳神様とは、元旦になると家々を福徳とともに訪れて幸せをもたらし、一年間守護してくれる高い山から下りてくる神様である。

かどやで二十歳の記念撮影

鳥羽市は、成人式に代わる「鳥羽市二十歳（はたちの会）」を一月八日午前十時半から十一時半まで、市民体育館サブアリーナで開催した。

その日の午後には、晴れ着姿の若人たちが、二十歳の姿を写真に残すためかどやを訪れた。

やってきたのはふた組で、一組目は近所のお嬢さん。二組目は同級生らしい十人がカメラマンを引き連れてやってきた。和服姿の彼らはキラキラとまばゆいばかり。庭や和室などで初々しい姿を写真に収めた。



晴れ姿をカメラに収める母

一組目は、中学生時代にかどやの料理教室に参加してくれたお嬢さんだった。どんな大人になったのかと撮影風景をのぞいてみた。華やかな

振袖姿は、清楚で若々しく陽の光を浴びて輝いており、成長ぶりに感激した。お菓子作りが好きで、パティシエを

目指す彼女は、調理の腕を磨くため、高校は地元ではなく、調理技術の高さで有名な学校に進学。卒業後は、早速パティシエ修行を開始。現在はさらにパンパティシエを目指して奮闘している。彼女をはじめ、夢を抱き、夢に向かって邁進している二十歳の皆さんに「あなたの道に幸多かれ」とエールを送りたい。

貸部屋の案内

かどやを有効に活用していただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご利用ください。詳細は、かどやへ。

電話〇五九九二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和4年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

平成30年度の会員数351名がピークで、それ以降残念ながら年々減少しています。しかし、コロナ禍にも関わらず、令和4年度は令和5年1月20日現在で259名の方から新規や継続のお申込みをいただきました。皆様からのご支援を心より感謝いたします。コロナの収束にはまだ時間がかかるものと思われそうですが、感染防止対策を強化しつつ、皆様の憩いの場所となるよう、スタッフ一同これからも日々努力を重ねてまいりますので、今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 当座 かどや保存会 00850-4-151751